

キーワードは《ローリスク・ハイリターン・フリータイム》…



30代既婚女性の職業観

- 「子育てと家事とで一生を終えたくない」……85%！
- 仕事は「やりがい」重視、でも出世は望まない傾向
- 家事の手を抜きたくても、夫への気兼ねを感じてしまう

1993.11/29

ポーラ文化研究所
担当：渡辺・高谷

【要約】

首都圏に住む30～39歳の既婚女性150人に、仕事と家事についてきいてみた。

- 「子育てと家事とで一生を終えたくない」85%…ほとんどの30代ミセスは子育てと家事以外に社会との接点を求めている。
- 30代ミセスのうち、現在働いていないのは62%。そのうち半数近くは、「近い将来職業に就きたい」と思っている。
- 仕事に就くにあたっては「やりがい」を重視。でも仕事での出世は望まない傾向にある。
- 職業を選ぶポイントは1位から順に「家から近いこと」「やりがいがある」「年齢制限がない」「自分の都合で働く時間が決められる」。
- 「仕事に就くにあたって家事を手抜きしてもよい」と思っている人は約半数弱。しかし多くの女性は「仕事についていても夫より早く帰宅したい」と考えており、夫への気兼ねがあるようだ。

【はじめに】

30代の既婚女性といえは子育てに家事にと大忙しで、外にでて働く余裕などないのではと思われがちだ。ところがそんな30代ミセスを調査した結果から、ほとんどの30代ミセスに働く意欲があることがわかった。

このレポートは「年齢別に見た女性の意識と行動調査'93」より、30代既婚女性150人の、結婚と職業についての意識を抽出し、まとめたものである

【調査概要】

※「年齢別に見た女性の意識と行動調査'93」

<調査対象>	東京駅30分圏内に居住する16～65歳の女性計1000人
<調査対象者抽出法>	エリアサンプリング法
<調査期間>	1993年7月
<調査方法>	個別訪問面接聴取、および一部留置法併用

※サンプル（30～39歳既婚女性）

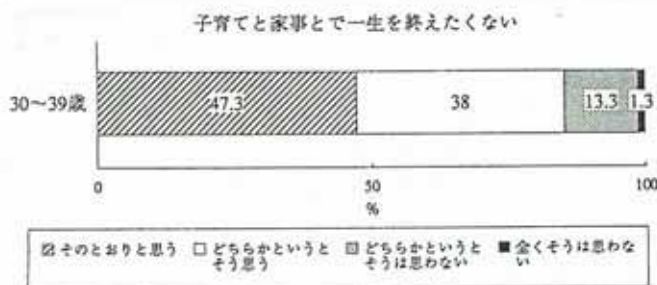
<人数>	150人
<子供のいる割合>	92%
<子供の年齢>	0～3歳…37%
	4～6歳…52.2%
	7～12歳…88.4%

【1】「子育てと家事とで一生を終えたくない」……85.3%！

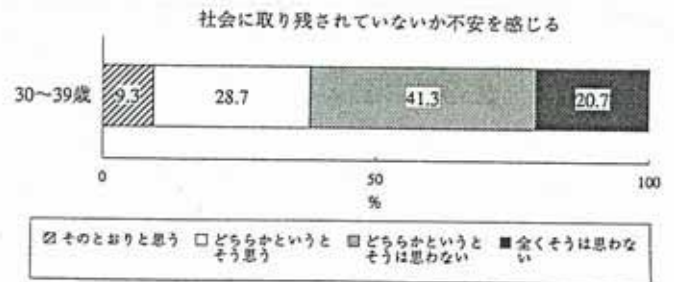
30代既婚女性のうち、「子育てと家事とで一生を終えたくない」と思っているのは、「その通りと思う」「どちらかというと思う」をあわせて85.3%と、非常に多い（グラフ1）。

また、「社会に取り残されていないか不安を感じる」人が4割もいることから、30代ミセスが家事・育児以外に社会との接点をもとめているを知ることができる（グラフ2）。

グラフ1



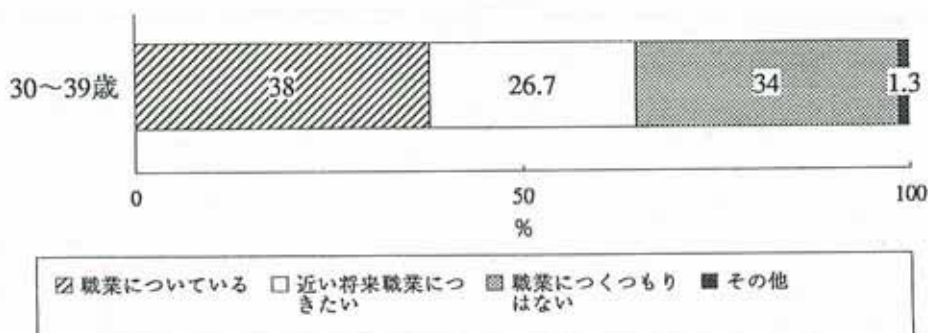
グラフ2



【2】現在職業についていない30代ミセスは62%、うち約半数に働く意欲がある

現在の就職状況をたずねたところ、「現在職業に就いている」のは38%と全体の1/3強である。一方現在働いていないミセスは62%、そのうち約半数近い26.7%の人が「近い将来職業に就きたい」と思っている。

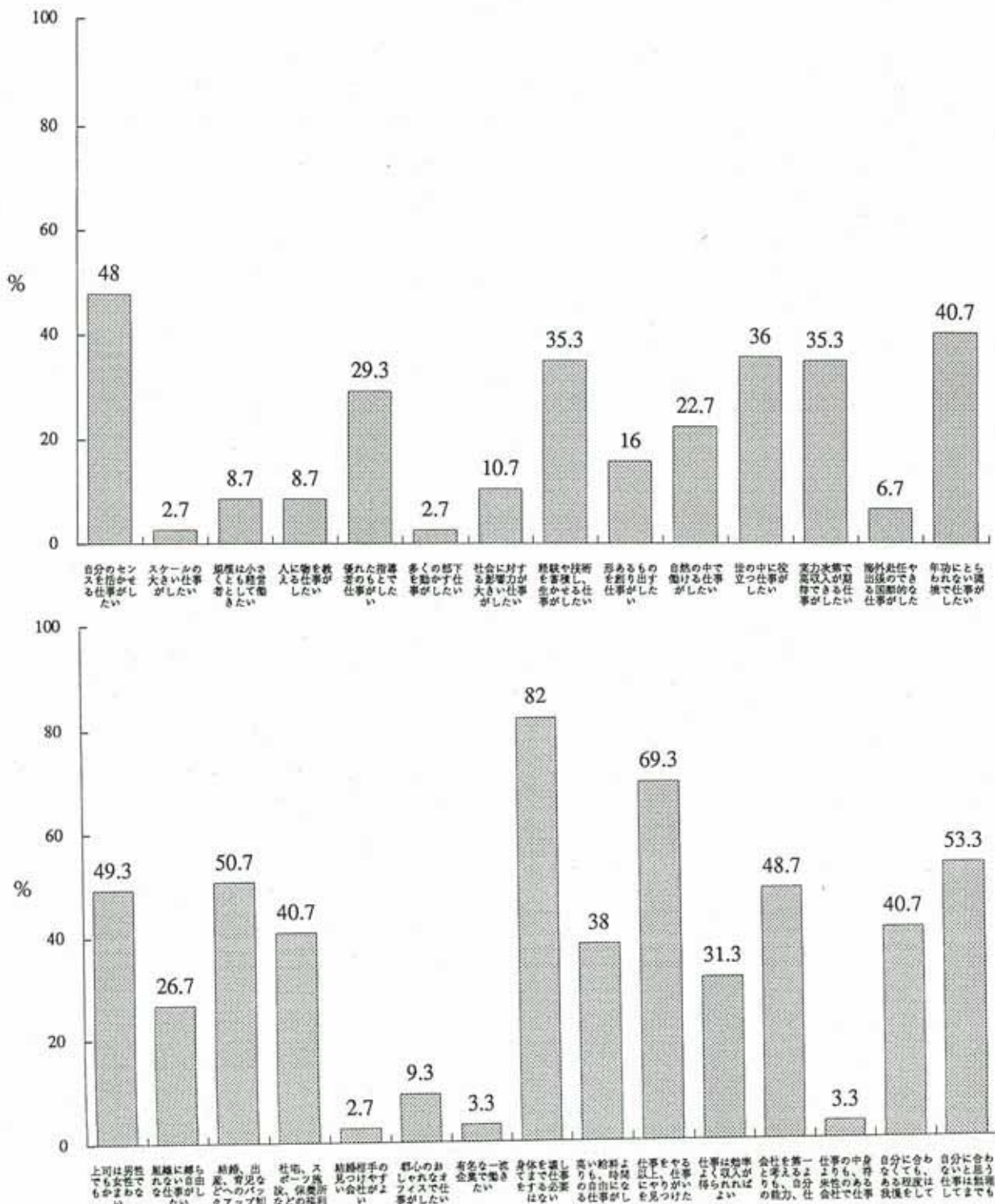
現在の就職状況



【3】仕事はやりがい重視、でも出世は望まない傾向

仕事をするときの考え方で同意できるものを、いくつでも選んでもらった。一番多かったのは「身体を壊してまで仕事をする必要はない」82%。以下、「仕事をやる以上、仕事にやりがいを見つけないといけない」69.3%、「自分に合わないと思う仕事は無理してまでもやらない」53.3%と続く。一方、「多くの部下を動かす仕事をしたい」は2.7%と最低、「規模は小さくとも経営者として働きたい」も8.7%と1割にも満たず、多くの30代ミセスは、責任の重い仕事は避けたい傾向にあるといえる。

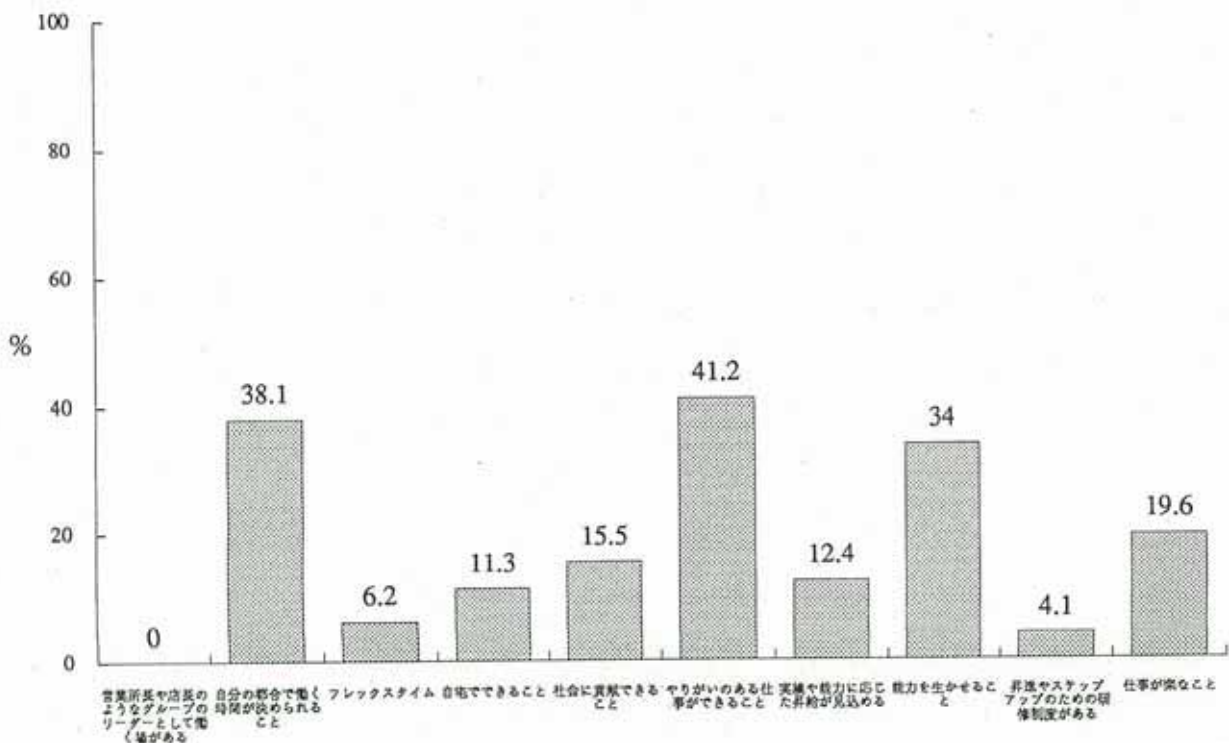
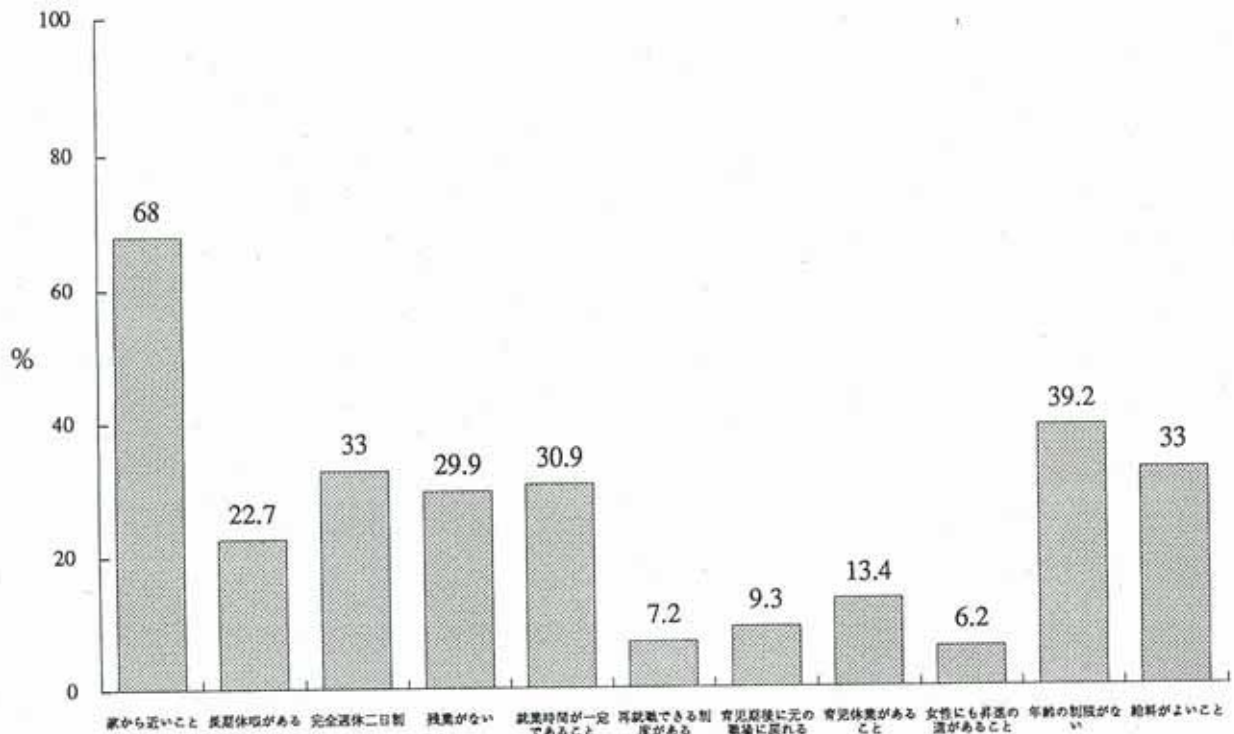
仕事に対する考え方で同意できるもの



【4】職業を選択する時は、「家から近いこと」を最も重視

職業を選ぶにあたって何を重視するかをたずねてみた。1位から順に、「家から近いこと」68%、「やりがいのある仕事ができること」41.2%、「年齢制限がない」39.2%、「自分の都合で働く時間が決められること」38.1%、であった。

職業を選ぶにあたって重視した点

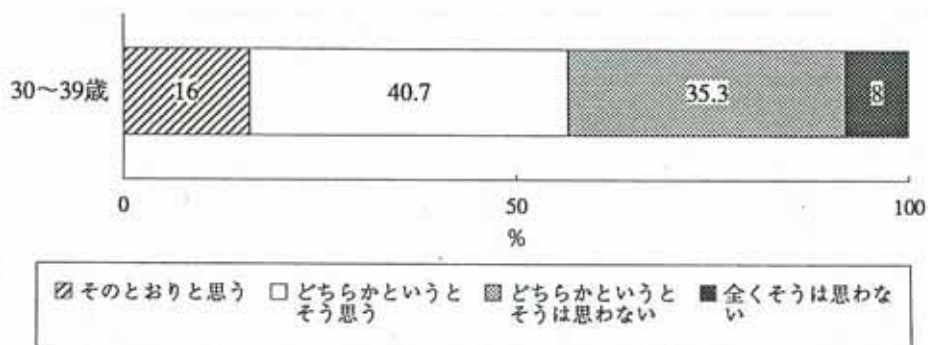


【5】家事と仕事

次に家事と仕事との両立について質問してみた。「家事を手抜きしてまで仕事にできるべきではない」と思っていない人は、43.3%と約半数（グラフ1）。しかしその一方では、「仕事についていても夫より早く帰宅したい」女性は77.3%と多く、夫への気兼ねを強く感じている（グラフ2）。

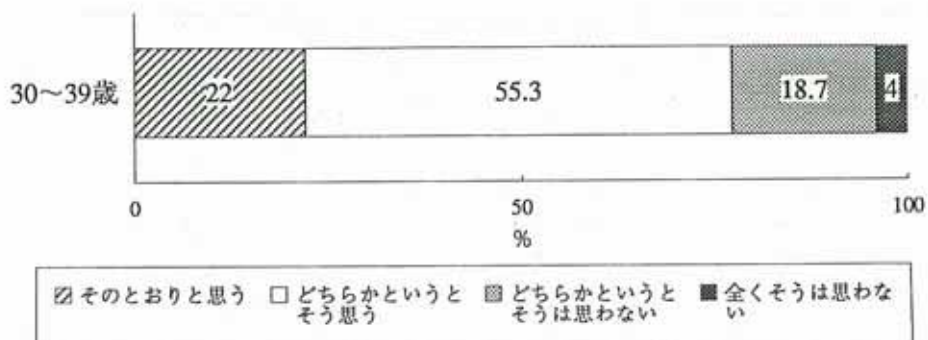
グラフ1

家事を手抜きしてまで仕事にできるべきではない



グラフ2

仕事についていても、夫より早く帰宅するのが好ましい



【まとめ】

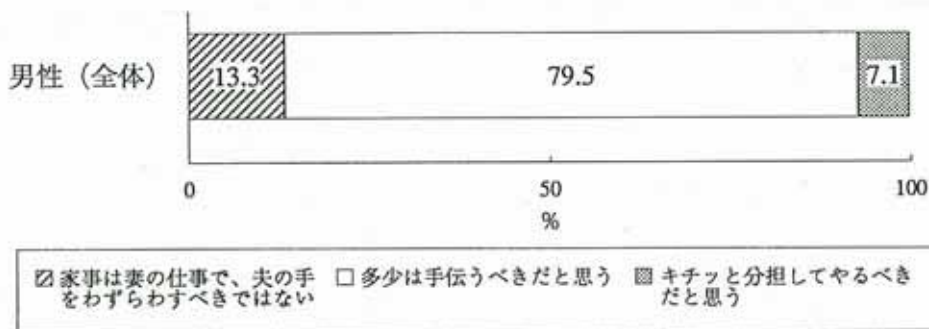
子供がまだ小さく、子育てと家事に忙殺される30代ミセス。生活が家庭中心になりがちのためか、家庭の外にでて仕事をしたいと思っている人は意外と多い。しかし家庭のことが気になり、仕事を選ぶ時にも無理なく家事との両立ができるような、一見ムシのよい条件を重視する傾向にある。

そんな30代ミセスも本音では、「仕事をするなら、ある程度家事の手を抜くこともやむをえない」と思っている。しかしその一方、「夫には手抜きしていると思われたくない」という夫への気兼ねもあって、家事と仕事との板挟みになっているようだ。

その背景には30代ミセスの夫たちが、「家事は妻の仕事」とばかりに家事に参加していないという実態があると考えられる。

下のグラフは、『年齢別に見た男性の意識と行動調査'92』より、16歳～65歳の男性に家庭での家事分担について聞いたものである。

夫が家事を手伝うことについてどう思いますか



夫が家事参加について、「キチッと分担してやるべき」と考えている人はわずか7.1%、反対に「家事は妻の仕事で、夫の手をわずらわすべきではない」と考えている人は13.3%もいる。

この調査結果からは、男性側が積極的に家事参加しようという姿勢は見られない。これではミセスたちが家を空けることに不安が生じるのも当然といえる。

したがって夫たちが自ら積極的に家事に参加することが、30代ミセスが働きやすい状況を作ることにつながると思われる。その一方で妻たちにも、「仕事をする」ということをもっとシビアな視点で捉え、ムシのよい条件ばかりを求めないようにする心構えが必要となろう。

とはいえ、家事を妻に任せっきりの男性は依然多い。30代ミセスが、仕事も家庭も一人でこなそうと奮闘しているのが実態だろうか。